

江戸時代-3【実力養成編】

まとめ（板書）

1) 【享保の改革】

- ・ 8代将軍の【徳川吉宗】による改革(1716～1745年)

①財政難への対応

- ・ 儉約令：武士に質素・儉約を命じる
- ・ 《上げ米の制》：大名に対し、石高1万石につき100石の米を献上させた
※見返りとして参勤交代の江戸滞在期間を1年から半年に
- ・ 新田開発：年貢を増やす

②【目安箱】の設置

- ・ 庶民の意見を聞くために置いた
⇒町火消し(江戸の町の防火・消火にあたる)を設置

③【公事方御定書】の制定

- ・ 公平な裁判の基準を定めた

④改革の結果：幕府の財政は一時的に立ち直った

重要年表

(1716～1745年)

- ・ 享保の改革

(1772～1786年)

- ・ 田沼の政治

(1787～1793年)

- ・ 寛政の改革

2) 農村の変化

①《貨幣経済》の農村への広まり

- ・ 要因1：農村で商品作物の栽培が広まったから
- ・ 要因2：農具や肥料の購入のため、現金収入が必要になったから
⇒影響：農村に貧富の差が広がる

┌ 土地を失い《小作人》になる者
└ 土地を買い集めて地主になる者

②【百姓一揆】

- ・ 領主に対する農民の集団的な反抗運動
- ・ 年貢の軽減、不正な役人の交代などを要求
- ・ 《からかさ連判状》：一揆の中心人物をかくすため、参加者が円形に署名

※┌【打ちこわし】：都市部で発生。米問屋や大商人の家屋をおそう
└ 百姓一揆・打ちこわしは、《ききん》が起これると増加

③経済の変化

- i) 《問屋制家内工業》：18世紀ごろ～
 - ・ 大商人や地主が道具・原料を農民に貸し出し、できあがった製品を買い取る
- ii) 《工場制手工業（マニュファクチュア）》：19世紀
 - ・ 大商人や地主が工場を建設し、農民などを集めて分業で製品を生産

3) 田沼の政治

- ・18世紀後半、老中【**田沼意次**】の政治

①財政難への対応

- ・【**株仲間**】の奨励：積極的に結成をすすめ、営業税を納めさせる
※商人の経済力を利用して財政を立て直そうとした
※わいろ政治に対する批判も
- ・長崎貿易の拡大：海産物の**俵物**の輸出を増やす

②《**天明のききん**》：1780年代に発生

- ・**浅間山**の噴火で**ききん**が深刻化
- ・各地で【**百姓一揆**や**打ちこわし**】が発生
⇒**田沼意次**は老中を辞めさせられる

4) 【**寛政の改革**】

- ・18世紀末、老中【**松平定信**】による改革

①財政難への対応

- ・**儉約令**を出す
- ・農村復興：江戸に出かせぎに来ていた農民を農村へ帰らせる
- ・旗本・御家人の借金を帳消しにする

②**寛政異学の禁**

- ・昌平坂学問所で【**朱子学**】以外の学問を禁止

③改革の結果

- ・厳しい改革に不満が広がる ※政治批判の禁止、出版の統制
⇒【**松平定信**】は老中を辞任

5) 新しい学問

①【**国学**】

- ・日本の古典を研究し、日本古来の精神を明らかにしようとする学問
- ・【**本居宣長**】が大成：「**古事記伝**」を書いた

②【**蘭学**】

- ・オランダ語でヨーロッパの文化を学ぶ学問
- ・【**杉田玄白**】：「**解体新書**」を出版
※オランダ語の人体解剖書を翻訳
- ・【**伊能忠敬**】：西洋の測量術を学び、日本各地を測量
⇒死後、正確な日本地図が完成

6) 【化政文化】

- ・19世紀前半、《江戸》の庶民を中心とする町人文化

①絵画

i) 浮世絵

- ・鈴木春信が錦絵を始める ※多色刷りの版画

ii) 美人画

- ・《喜多川歌麿》が「ポッピンを吹く女」などを描く

iii) 風景画

- ・【葛飾北斎】の「富嶽三十六景」
- ・【歌川広重(安藤広重)】の「東海道五十三次」

②文学・文芸

- ・【十返舎一九】のこっけい本「東海道中膝栗毛」
- ・《曲亭馬琴(滝沢馬琴)》の読本「南総里見八犬伝」
- ・俳諧：《小林一茶》・《与謝蕪村》が活躍
- ・《川柳》…俳諧の形式で社会や政治を風刺
- ・《狂歌》…和歌の形式で社会や政治を風刺

③教育の普及

i) 《藩校》

- ・各藩が人材育成のために設立
- ・武士に儒学などを教える

ii) 【寺子屋】

- ・町や農村に設けられた庶民の教育機関
- ・読み・書き・そろばんなどを教える

要点チェック① 幕政の改革

- ◎1. 8代将軍の【徳川吉宗】は、【享保の改革】を実施した。その結果、幕府の財政は一時的に立ち直った。
 - 2. 徳川吉宗は儉約令を出して武士に質素・儉約を命じた。
- 3. 徳川吉宗は大名の参勤交代の負担を減らす（江戸滞在期間を1年から半年にした）かわりに、石高1万石につき100石の米を献上させた。期間限定で行われたこの政策を《**上げ米の制**》という。
- ◎4. 徳川吉宗は、公平な裁判の基準となる【**公事方御定書**】を制定した。また、庶民の意見を聞くために【**目安箱**】を設置した。
- 5. 農村で商品作物の栽培が広まったことや、農具や肥料の購入が必要になったことなどから、農村にも《**貨幣経済**》が広がった。
- 6. 土地を手放して《**小作人**》（自分の土地を持たない農民）になる者や、土地を買い集めて**地主**になる者が現れ、農村に**貧富の差**が広がった。
- ◎7. 年貢の軽減や不正な役人の交代を求めて、農民はたびたび【**百姓一揆**】を起こして領主に反抗した。
- 8. 百姓一揆の中心人物をかくすため、一揆の参加者が円形に署名する《**からかさ連判状**》もあった。
- ◎9. 都市部では、米などの物価が上昇すると、米屋や（米を買い占めた）大商人の家屋をおそう【**打ちこわし**】が起こった。
- 10. 百姓一揆や打ちこわしは、《**ききん**》が起こると多発した。
- 11. 18世紀ごろから、大商人や地主が道具・原料を農民に貸し出し、できた製品を買い取る《**問屋制家内工業**》が農村に広まった。
- 12. 19世紀になると、大商人や地主が工場を建設し、人を集めて分業で製品を生産させる《**工場制手工業（マニュファクチュア）**》が広まった。
- ◎13. 18世紀後半、老中の【**田沼意次**】は、商人に【**株仲間**】を結成することをすすめ、営業税を納めさせて幕府財政の立て直しをはかったが、わいろ政治が横行して批判が高まった。
 - 14. 田沼意次は**俵物**（海産物）の輸出を拡大し、長崎貿易を活発にした。
- ◎15. 1780年代に発生した《**天明のききん**》は**浅間山の噴火**で深刻化し、各地で【**百姓一揆**や**打ちこわし**】が多く起こり、田沼意次は老中を辞めさせられた。
- ◎16. 田沼意次のあと、老中【**松平定信**】が【**寛政の改革**】を行った。
 - 17. 松平定信は、財政難への対応として**儉約令**を出した。また、農村の復興のため、江戸に出かせぎに来ていた農民を農村へ帰らせた。
- ◎18. 松平定信は**昌平坂学問所**をつくり、【**朱子学**】以外の学問を禁止した（**寛政異学の禁**）。
- 19. 松平定信は**旗本・御家人の借金**を帳消しにした。
- ◎20. 厳しい改革に人々は不満を強め、【**松平定信**】は老中を辞職した。

要点チェック② 新しい学問と文化

- ◎1. 日本の古典を研究し、仏教や儒教が伝わる前の日本人の精神を研究する学問を【**国学**】という。
- ◎2. 国学は「古事記伝」を書いた【**本居宣長**】によって大成された。
- ◎3. オランダ語を通して西洋の技術・文化を学ぶ学問を【**蘭学**】という。
- ◎4. 蘭学者の【**杉田玄白**】らは、ヨーロッパの人体解剖書を翻訳して「【**解体新書**】」を出版した。
- ◎5. 西洋の測量術を学んだ【**伊能忠敬**】は日本各地を測量し、その死後に完成度の高い日本地図が完成した。
- ◎6. 19世紀前半、《**江戸**》を中心に、庶民までも担い手とする町人文化の【**化政文化**】が栄えた。
 - ・7. 浮世絵師の**鈴木春信**は、**錦絵**と呼ばれる多色刷りの版画を始めた。
- 8. 美人画では《**喜多川歌麿**》が活躍し、「**ポッピンを吹く女**」などの作品を残した。
- ◎9. 風景画では【**葛飾北斎**】の「**富嶽三十六景**」、【**歌川広重(安藤広重)**】の「**東海道五十三次**」などの作品が有名である。
- ◎10. 文学・文芸では、【**十返舎一九**】がこっけい本の「**東海道中膝栗毛**」を書いた。
- 11. 《**曲亭馬琴(滝沢馬琴)**》は歴史的伝奇小説である読本の「**南総里見八犬伝**」を書いた。
- 12. 俳諧では《**小林一茶**》や《**与謝蕪村**》が活躍した。
- 13. 庶民の間には、社会や政治を皮肉った文芸として、俳諧の形式を用いた《**川柳**》や、和歌の形式を用いた《**狂歌**》が流行した。
- 14. 各藩は《**藩校**》を設立し、人材育成のため武士に儒学などを教えた。
- ◎15. 庶民の教育機関として町や農村に【**寺子屋**】が多く設立され、読み・書き・そろばんなどの教育が行われた。

重要事項の演習-1

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

1716年、紀伊藩主から8代将軍になった(1)によって、(2)とよばれる改革政治が約30年にわたって始められた。幕府の財政難に対応するため、(1)は武士に質素・儉約を命じ、大名に対しては **a 石高1万石につき100石の米を献上させ、見返りに参勤交代で大名が江戸にいる期間を1年から半年に短縮した。ほかにも、(1)は人々の意見を聞くために(3)を設置したり、**b 裁判の基準となる法律**を定めたりした。(1)が行った改革により、幕府の財政は一時的に立ち直った。**

10代将軍の信任のもと、18世紀後半に**老中**になった(4)は、商工業者が(5)を結成することを積極的にすすめ、彼らから営業税を取り立てて幕府の財政を再建しようとした。しかし、地位や特権を求めていろいろが横行したことに批判が集まった。また、**天明のききん**を原因として農村で(6)、都市で(7)が多く発生し、(4)は老中を辞めさせられた。

(4)の後に政治の中心となったのが、**老中の(8)**であった。(8)は祖父である(1)の政治を理想とし、(9)とよばれる改革政治を行った。(8)は江戸に出てきた農民を農村に返し、ききんに備えて米をたくわえさせるなどの政策を行った。また、江戸に昌平坂学問所を創設して武士に(10)を学ばせ、(10)以外の学問を禁止した。しかし、政治批判を禁止したり出版物を統制したりするなどの厳しい改革に批判が集まり、(8)の改革政治は6年ほどで終わった。

農村に**貨幣経済**が広まると、農民の間で貧富の差が拡大した。その結果、土地を手放して**小作人**になる者や年に出かせぎに出る者、土地を買い集めて**地主**になる者が現れた。18世紀には、**c 商人が農民に原料や道具を貸し付けて、農民の生産した製品を買い取るしくみが広まった**。さらに19世紀になると、**d 商人が農民を作業場に集め、分業や協業によって製品を生産するしくみが広まった**。

解答

問 1

1 _____

2 _____

3 _____

4 _____

5 _____

6 _____

7 _____

8 _____

9 _____

10 _____

問 2 _____

問 3 _____

問 4 _____

問 5 _____

問 1 文章中の空らん 1～10にあてはまる言葉を答えなさい。

問 2 下線部 a の政策を何というか。

問 3 下線部 b の法律を何というか。

問 4 下線部 c を何というか。

問 5 下線部 d を何というか。

重要事項の演習-2

次のまとめを見て、あとの問いに答えなさい。

1. 新しい学問

①(ア)

- ・日本人の思想や考え方を研究する学問
- ・「古事記伝」を著した(イ)が大成した

②(ウ)

- ・オランダ語でヨーロッパの技術などを学ぶ学問
- ・前野良沢・(エ)らがヨーロッパの人体解剖書を翻訳・出版した
- ※(オ)はヨーロッパの技術で全国の海岸線を測量し、正確な日本地図を作成した

2. (カ) : 19世紀前半、江戸を中心に栄えた文化

①絵画

- ・(キ) : 美人画の「ポッピンを吹く女」を描いた
- ・(ク) : 「富嶽三十六景」で富士山の見える風景を多数描いた
- ・(ケ) : 東海道を題材にした「東海道五十三次」を描いた

②文学

- ・(コ) : 2人の町人が東海道を旅するこっけい本の「東海道中膝栗毛」を書いた。
- ・(サ) : 俳句の形式(5・7・5)で社会を皮肉った文芸

③教育

- ・(シ) : 各藩の教育機関。藩士に儒学などを教えた
- ・(ス) : 庶民の教育機関。読み・書き・そろばんを教えた

解答

問1

ア _____

イ _____

ウ _____

エ _____

オ _____

カ _____

キ _____

ク _____

ケ _____

コ _____

サ _____

シ _____

ス _____

問2 _____

問1 まとめのア～スにあてはまる用語や人名を答えなさい。

問2 下線部について、翻訳して出版された書物の名前を答えなさい。

重要事項の演習-3

次の文章を読んで、各問いに答えなさい。

A : 私は、①農村を復興して財政の立て直しをめざしました。江戸に出かせぎにきている農民たちを農村に帰るようすすめ、商品作物の栽培を制限しました。

B : 私は、②商人の経済力を利用して財政を立て直そうとしました。しかし、わいろが横行して批判をあび、③ききんの発生もあって、④百姓一揆や打ちこわしが多く発生してしまいました。

C : 私は、幕府の将軍として政治改革を行いました。財政再建のために儉約令を出したほか、⑤大名の力も借りました。

- 問1 A～Cを年代順に並べ替えなさい。
- 問2 AとBの人物は、幕府の何という役職についていたか。
- 問3 次の狂歌が読まれたのは、A～Cのどれのときか。
「白河の清きに魚のすみかねて、元のにごりの田沼こいしき」
- 問4 下線部①について、18世紀の農村では貨幣経済が浸透し、農民の間に貧富の差が広がった。生活の苦しい農民は土地を売却して(ア)となる者もいた。アに入る言葉を漢字3字で答えなさい。
- 問5 下線部②について、Bの人物はどのような政策を行ったか。「税」の言葉を使って説明しなさい。
- 問6 下線部③について、このききんを何というか。
- 問7 下線部④に関連して、からかさ連判状のように円形に署名したのはなぜか。簡単に説明しなさい。
- 問8 下線部⑤について、Cの人物はどのような政策を行ったか。次の文章のa・cに入る内容と、bに入る言葉を書きなさい。
Cは大名に対し、石高(a)を幕府に納めさせた。そのかわりに、(b)をゆるめ、(c)に短縮した。
- 問9 化政文化について、①～⑥にあてはまる人物をア～キから1人ずつ選び、記号で答えなさい。

- ① 読本の「南総里見八犬伝」を書いた。
- ② 俳諧で活躍した。
- ③ 風景画の「東海道五十三次」を描いた。
- ④ 美人画の「ポップンを吹く女」などを描いた。
- ⑤ こっけい本の「東海道中膝栗毛」を書いた。
- ⑥ 浮世絵で錦絵と呼ばれる多色刷りの版画を始めた。

- ア 小林一茶 イ 曲亭(滝沢)馬琴 ウ 歌川(安藤)広重
エ 十返舎一九 オ 葛飾北斎 カ 鈴木春信
キ 喜多川歌麿

解答

問1 ⇒ ⇒

問2 _____

問3 _____

問4 _____

問5 _____

問6 _____

問7 _____

問8

a _____

b _____

c _____

問9

① _____ ② _____

③ _____ ④ _____

⑤ _____ ⑥ _____

重要事項の演習-1

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

1716年、紀伊藩主から8代将軍になった(1)によって、(2)とよばれる改革政治が約30年にわたって始められた。幕府の財政難に対応するため、(1)は武士に質素・儉約を命じ、大名に対しては **a 石高1万石につき100石の米を献上させ、見返りに参勤交代で大名が江戸にいる期間を1年から半年に短縮した。ほかにも、(1)は人々の意見を聞くために(3)を設置したり、**b 裁判の基準となる法律**を定めたりした。(1)が行った改革により、幕府の財政は一時的に立ち直った。**

10代将軍の信任のもと、18世紀後半に**老中**になった(4)は、商工業者が(5)を結成することを積極的にすすめ、彼らから営業税を取り立てて幕府の財政を再建しようとした。しかし、地位や特権を求めていろいろが横行したことに批判が集まった。また、**天明のききん**を原因として農村で(6)、都市で(7)が多く発生し、(4)は老中を辞めさせられた。

(4)の後に政治の中心となったのが、**老中の(8)**であった。(8)は祖父である(1)の政治を理想とし、(9)とよばれる改革政治を行った。(8)は江戸に出てきた農民を農村に返し、ききんに備えて米をたくわえさせるなどの政策を行った。また、江戸に昌平坂学問所を創設して武士に(10)を学ばせ、(10)以外の学問を禁止した。しかし、政治批判を禁止したり出版物を統制したりするなどの厳しい改革に批判が集まり、(8)の改革政治は6年ほどで終わった。

農村に**貨幣経済**が広まると、農民の間で貧富の差が拡大した。その結果、土地を手放して**小作人**になる者や年に出かせぎに出る者、土地を買い集めて**地主**になる者が現れた。18世紀には、**c 商人が農民に原料や道具を貸し付けて、農民の生産した製品を買い取るしくみが広まった**。さらに19世紀になると、**d 商人が農民を作業場に集め、分業や協業によって製品を生産するしくみが広まった**。

解答

問 1

1 徳川吉宗

2 享保の改革

3 目安箱

4 田沼意次

5 株仲間

6 百姓一揆

7 打ちこわし

8 松平定信

9 寛政の改革

10 朱子学

問 2 上げ米の制

問 3 公事方御定書

問 4 問屋制家内工業

問 5 工場制手工業(マニユファクチュア)

問 1 文章中の空らん 1～10にあてはまる言葉を答えなさい。

問 2 下線部 a の政策を何というか。

問 3 下線部 b の法律を何というか。

問 4 下線部 c を何というか。

問 5 下線部 d を何というか。

重要事項の演習-2

次のまとめを見て、あとの問いに答えなさい。

1. 新しい学問

①(ア)

- ・日本人の思想や考え方を研究する学問
- ・「古事記伝」を著した(イ)が大成した

②(ウ)

- ・オランダ語でヨーロッパの技術などを学ぶ学問
- ・前野良沢・(エ)らがヨーロッパの人体解剖書を翻訳・出版した
- ※(オ)はヨーロッパの技術で全国の海岸線を測量し、正確な日本地図を作成した

2. (カ): 19世紀前半、江戸を中心に栄えた文化

①絵画

- ・(キ): 美人画の「ポッピンを吹く女」を描いた
- ・(ク): 「富嶽三十六景」で富士山の見える風景を多数描いた
- ・(ケ): 東海道を題材にした「東海道五十三次」を描いた

②文学

- ・(コ): 2人の町人が東海道を旅するこっけい本の「東海道中膝栗毛」を書いた。
- ・(サ): 俳句の形式(5・7・5)で社会を皮肉った文芸

③教育

- ・(シ): 各藩の教育機関。藩士に儒学などを教えた
- ・(ス): 庶民の教育機関。読み・書き・そろばんを教えた

解答

問1

ア 国学

イ 本居宣長

ウ 蘭学

エ 杉田玄白

オ 伊能忠敬

カ 化政文化

キ 喜多川歌麿

ク 葛飾北斎

ケ 歌川広重(安藤広重)

コ 十返舎一九

サ 川柳

シ 藩校

ス 川柳

問2 解体新書

問1 まとめのア～スにあてはまる用語や人名を答えなさい。

問2 下線部について、翻訳して出版された書物の名前を答えなさい。

重要事項の演習-3

次の文章を読んで、各問いに答えなさい。

A : 私は、①農村を復興して財政を立て直しをめざしました。江戸に出かせぎにきている農民たちを農村に帰るようすすめ、商品作物の栽培を制限しました。

B : 私は、②商人の経済力を利用して財政を立て直そうとしました。しかし、わいろが横行して批判をあび、③ききんの発生もあって、④百姓一揆や打ちこわしが多く発生してしまいました。

C : 私は、幕府の将軍として政治改革を行いました。財政再建のために儉約令を出したほか、⑤大名の力も借りました。

- 問1 A～Cを年代順に並べ替えなさい。
- 問2 AとBの人物は、幕府の何という役職についていたか。
- 問3 次の狂歌が読まれたのは、A～Cのどれのときか。
「白河の清きに魚のすみかねて、元のにごりの田沼こいしき」
- 問4 下線部①について、18世紀の農村では貨幣経済が浸透し、農民の間に貧富の差が広がった。生活の苦しい農民は土地を売却して（ア）となる者もいた。アに入る言葉を漢字3字で答えなさい。
- 問5 下線部②について、Bの人物はどのような政策を行ったか。「税」の言葉を使って説明しなさい。
- 問6 下線部③について、このききんを何というか。
- 問7 下線部④に関連して、からかさ連判状のように円形に署名したのはなぜか。簡単に説明しなさい。
- 問8 下線部⑤について、Cの人物はどのような政策を行ったか。次の文章のa・cに入る内容と、bに入る言葉を書きなさい。
Cは大名に対し、石高（a）を幕府に納めさせた。そのかわりに、（b）をゆるめ、（c）に短縮した。
- 問9 化政文化について、①～⑥にあてはまる人物をア～キから1人ずつ選び、記号で答えなさい。
- ① 読本の「南総里見八犬伝」を書いた。
 - ② 俳諧で活躍した。
 - ③ 風景画の「東海道五十三次」を描いた。
 - ④ 美人画の「ポッピンを吹く女」などを描いた。
 - ⑤ こっけい本の「東海道中膝栗毛」を書いた。
 - ⑥ 浮世絵で錦絵と呼ばれる多色刷りの版画を始めた。
- ア 小林一茶 イ 曲亭(滝沢)馬琴 ウ 歌川(安藤)広重
エ 十返舎一九 オ 葛飾北斎 カ 鈴木春信
キ 喜多川歌麿

解答

- 問1 C ⇒ B ⇒ A
- 問2 老中
- 問3 A
- 問4 小作人
- 問5 例：株仲間の結成をすすめ、税を納めさせた。
- 問6 天明のききん
- 問7 例：一揆の中心人物をかくすため。(一揆の参加者の団結を強めるため。)
- 問8
a 例：1万石につき100石の米
b 参勤交代
c 例：江戸に滞在する期間を1年から半年
- 問9
① イ ② ア
③ ウ ④ キ
⑤ エ ⑥ カ